教育の最大目的

新渡戸稲造

青空文庫

各種生産物が時代の需用に応じて、供給せらるると同じく、教育もまた時代に適応して、その方針を樹立せざるべからず。予は教育に於ては素人なれど、日本国民を如何に教育すべきか、換言せば教育の最大目的は如何との題下に一言述べてみようと思う。

教育とは「活ける人間を造る」との一言に包含することが出来よう。予のいわゆる活ける人間とは、死せる人間に対する言辞にあらずして、死せる智識や活用されざる学問を有する者に対して言うのみ。専門の学者に在ては活用し得ざる智識また必要ならんも、普通教育に於ては然らず、世間往々学者の常識欠乏せるを言う。実際学問のために常識を弱めらることがあろう。然れども常識のみが智識にあらず、常識以外に智識あり。殊に学問は常識以外の智識にして、学問の蘊奥を極むれば、それだけ常識以外の常識を発達せしむ。これ学問上の智識が常識を圧迫して、その領地を縮小せしむる故に、予は常識のみを養うべしとは言わず、英国の一学者は学術は常識を広むるものなりといえるも、これ常識を甚だ広き意味に解せるものである。とにかく学問は常識以外の智識を養うものにして、原より教育を受けたる者にて、偉人物輩出することがある。けれども教育足りて常識を失い、活ける人間を死せしむるものなしとも限らぬ。故に教育の目的は如何に深淵なる学理の攻究研鑽を積むも、常識圏外に逸する事なく、研学の歩を進むると同時に、活社会を離れず、いわゆる世と推移り時世の進歩傾向を知ると共に、活社会に処して活動するの能力を養うこそ教育の最大目的なるべけれ。然るに学校に在りて多年

蒐集したる智識をば一旦業を了え校門を出ずると同時に、そのすべてを失却するもの甚だ多い。仏国の如きこの例に漏れざるものと言うべきである。吾人は教育上の施設に関し、幾多上官の訓示に接しておる。予は教育制度に対して何ら論評を加うるものではないが、その活用に関しては、不満なる能わざるものである。帝国議会は徳育の効果を云為して、文部当局を攻撃するが常なるも、これ甚だ無理の注文である。予が文部に属する一官吏たる小役故、敢て弁護を為すにあらざるも、いずれの処にかよく徳育の効果を収め得たるものなるか、我国が取て以て模範とせる独逸を見よ。彼に犯罪ある、自然主義あるにあらずや、ビスマーク、ビューローを以てするも現カイゼルを以てするも、到底徳育の効果を全うするは不可能の事たるや、明かである。家庭に於ては夫婦喧嘩をなし、一杯機嫌で打擲をなして憚らず、而してその子弟を聖人たらしめよとは矛盾の甚しきものである。さりとて教育者が最善手段を尽せりとして現状に甘んずるの不可なるこというまでもない。

教育界に唱道せらるるところの教育の統一なるものは、我邦に於て果して能く行われつつあるか、何故に統一の目的たる効果は完全に収められ得られざるかは、思うに教育者がこれを活用するの余裕に乏しきためならざるか、語を換えて曰えば、教育者が社会より優遇せられざる間は充分に教育の精神を咀嚼すること不可能である。仏国にては能く統一せられおりてギゾーは仏国の学校に在る総ての生徒が一定の時間に某教科書の何頁を読みつつあるかを容易に知り得らるると言えるにても知るべく、統一もここに至りて極端なりというべきである。仏国の統

一は徒らに形式のみに偏し、彼らは卒業証書を受くる瞬間に於て、多年学校に於て修習せしすべてを失却して卒業証書は只一片の反故同然たるの幣に陥ておる。英国はこれに反し学校の卒業証書を得るものは、一定の教養訓練を経たる事を証するだけの実質を有し、一たび学校を出ずれば直ちに活社会に立て活動し得るの人たるを備えておる。我邦の教育は英国式か仏国式かはた独逸式か、独逸に於てはフレーベルの著書に見るも修身教育の挙らざるを知るべくして、品格品行等遥かに英米の生徒に及ばず、独逸、仏国の教育に於て確かにその欠点なるものあるを見る。

　要するに教育者が注意すべきは、活ける社会に立ち万国に共通し得べく厳正にして自国自己及び自己の思想に恥じず、実際の人生に接して進み、世界人類に貢献する底の人物を造る事に在るなり。世才ある風の任意漂い行く意味にあらずして、世界の大勢に応じ、なお個人性を失わず、而して世界の潮流に先ちて進むを以て教育の最大目的とせねばならぬ。換言すれば実行的活動的の人物を造ることである。伊勢鈴鹿川の琴の橋がその流下する水量に依て音響を異にし、希臘イオリヤの琴の音調が樹の間を吹く風に伴うが如く、教育の目的も世界の大勢に適応せしむることである。天下事あれば矛を執て立、事なければ田畝に帰耕す、要は只時代の要求に応ずることである。切言すれば宇宙の言うべからざる一種異様なる力と交わり、時の要求と共に推移り活社会に活動するの人格を養成を教育の最大目的とせねばならぬ。

〔一九一一年八月一日『精神修養』二巻八号〕

青空文庫情報

底本：「新渡戸稲造論集」岩波文庫、岩波書店
　　2007（平成19）年5月16日第1刷発行
底本の親本：「精神修養　二巻八号」精神修養社
　　1911（明治44）年8月1日
初出：「精神修養　二巻八号」精神修養社
　　1911（明治44）年8月1日
入力：田中哲郎
校正：ゆうき
2011年1月8日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

教育の最大目的

新渡戸稲造

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/